

「国際関係」「国際理解」の勉強もスタートしよう

開倫塾

塾長 林明夫

『1989年は社会主義諸国において実に様々な変動が起きました。中国における学生を中心とした民主化運動の高揚と天安門事件、ハンガリーにおける複数政党化や共産党から社会党への脱皮、ポーランドにおける連帯政権の樹立、ソ連におけるペレストロイカの進展とバルト3国の民族運動の高まり、東ドイツにおけるホーネッカー議長の退陣とベルリンの壁の取り壊し、等々枚挙にいとまがありません。

こうした社会主義における構造的変化がなぜいま一挙に噴出したのでしょうか。これらは社会主義の崩壊現象の第一歩を意味するのでしょうか。またこうした動きは今後どのように展開するのでしょうか。さらに今後世界はポスト冷戦構造と呼ばれるなかでどのような新たな国際システムを形成するのでしょうか。』

*財団法人「国際文化会館」主催のシンポジウム「激動する社会主義世界・現状と展望」(1989年12月19日国際文化会館・講堂)の案内文から引用。

1. 1917年のロシア革命ではじめて社会主義の国がこの世界に誕生して以来、社会主義の国々が世界を二分するほど数多くできました。その社会主義の国々が国の存続について、つまり国がこのままの状態でも成り立つかどうかについて、最大のピンチを迎えているのが1989年であるといえます。共産主義の考え方でつくった国であるにもかかわらず共産主義ということばを使うことさえ困難となっています。国防費等に国のお金をまわしすぎたために、国民の生活に最低限必要なものが極端に不足しているようです。食糧品ですら長い行列をしなければ買えない状況であると言われます。

開倫塾の塾生の皆さんは、小学校高学年生、中学生、高校生でいらっしゃいますが勉強熱心で優秀な方ばかりですので、将来必ず世界的な規模で生活をするものと考えられます。又、たとえ、日本国内で生活するにしても、ここまで世界経済の中で占める日本の地位が高まってきている現在、他の国々について無関心、無知識でいられるとは思いません。

そこで、1990年の年のはじめに塾生諸君におねがいたいのは、世界がどのように1989年に動いてきたのかを十分整理して頭に入れてほしいことと、新しい1990年に時々刻々動き出す世界の動きを十分勉強してほしいということです。

われわれの所属する資本主義諸国の内部でも様々な動きがあります。食うや食わずの国々もいやになるほどあり、その国々がこれまた一所懸命に国をおこそうと様々な努力をしています。共産主義社会主義の国々も国民の人間らしい生活を求めて大きな動きをしようとしています。1990年は、世の中、とりわけ国際関係をじかに勉強するには又とない絶好の年であると信じます。

是非、開倫塾の塾生の皆さんの本年からの勉強の一つに「国際関係」と「国際理解」を入れていただき、真剣にとりくんでほしいと熱望します。

2. では、具体的にどのように「国際関係」や「国際理解」につき勉強するのか、その方法について次のべます。最も基本的なこと、最も身近にかんたんにできることをのべさせていただきますので、今日からでもすぐできます。ためしにやってみてください。

(1) 今までに習った「地理」と「歴史」の教科書をさがし出し、机の上におく。できれば、1～2日かけて一通り読んでしまう。地図帳や歴史年表、歴史地図帳も同時にそろえる。(これも又地理や歴史の教科書を読むときに読んでしまう。)

(2) 国際関係や、国際理解について書かれている教科書や読みもので、家にあるものを机の上にならべ、これまた1～2日で読んでしまう。

(3) 新聞の「国際政治」「国際理解」のらんを毎日読むくせをつける。読むときには必ず地図帳を横におき、地名を地図帳で確認しながら読む。興味のある記事には印をつけておき、家族がすべてその新聞を読み終えたあと、切り抜き、スクラップブック(ふつうのノートでよい)にはりつけておく。

(4) テレビやラジオのニュースでは各国の動きについて十分関心を払う。地名でよくわからないところは、地図帳をすぐを開き、たえず確める。TV やラジオで、国際関係につき特集番組があるときは必ず見る。その時間に見れないときには、VIDE Oで録画しておく。TV 番組をテープに録音しておくのもあとで非常に役に立つ。(手軽に再生、どこでも聴けるので。) VIDE Oやテープ・レコーダーを十分活用し、興味のあるものは何回でも見たり、聴いたりすることも大事。

(5) できれば、「英字新聞」を毎日家でとり、興味のあるところは読むとよい。学校や、地域の図書館には必ず英字新聞はおいてあるのでできるだけ読むとよい。東京や大きな町の駅のスタンドには英字新聞がおいてあるので、どこかに出掛けたときに買い、みんなでワイワイ、ガヤガヤいいながら読んでみるとよい。

(6) 自分でお気に入りの国を一つ早いとこみつけ、その国のことを徹底的に調べつくすとよい勉強になります。旅行者用のガイド・ブックを買ってきたり、その国で使われている言語(ことば)のテキストを買ってきて、習ったり、新聞、TV、ラジオなどでその国について報道されていたら、特別に注意して読んだり、見たり、聞いたりすることも大切。

(7) 学校やその他のところで、国際理解や国際関係、開発援助についてのプログラムがあったら、積極的に参加することも大事。(但し、その場合は、学校の先生や保護者に参加することが適当かどうか十分おききすることが大事です。先生や保護者が参加すべきでない判断したら、その意見に従い、別のプログラムを紹介していただきましょう)

(8) 世界の国々の人々のために現在の自分が何ができるかを考え無理がない範囲で、やれることはやってみるのも面白い。長い休みなどを利用して、お年玉やお小使いをためて近くの国に行ってみるのもおもしろい(但し保護者といっしょに)。おみやげさえ買わなければ、結構旅費だけで外国にはいけるものです。ライオンズクラブ、ロータリークラブ、YMCA など社会奉仕、教育団

体に留学生が来たら、何泊かホームステイを自宅にしてもらい仲良くなるのもいい勉強です。自分が、そのような団体の留学生になり外国でホームステイをするのも面白い。

3. 「国際関係」や「国際理解」につき小中高生がどのように勉強するかはこの他に様々な方法があると思います。(一番てっとり早いのは、大学生や大学院生が読むような「国際関係論」や「国際政治」「国際経済」「地域研究」「開発教育」「開発援助」等々についてのテキストや論文を読んでしまうことです。元気のよい中学高学年生や高校生なら読んで理解できますから大きめの本屋さんや、大学の中にある本屋さんで買い求めるとよいと思われます。先の学年のことを勉強するのに遠慮は一切不要です。どんどん勉強はすすめるべきです。ただ、最も大事なことは今の日本のことや、この地域のことをもっとよく知ることです。自分自身のことがよくわからず、他の国のことを理解できるはずがないからです。

4. 自分でしたい勉強をすきなだけすることのできる日本の小中高校生は本当に幸せです。塾どころか学校にも行けない青少年がこの世界には何億人もいるのですから。世界中の人々が幸せな生活を送ることができるよう勉強するチャンスを十分与えられた日本の学生は今を一所懸命に勉強に使うべきと考えます。がんばりましょう。